



宮司プレス 第百七十八号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年十月二十二日

◇宮司の柴田です。 十月は、別名「神無月

(かんなづき)」と称(しょう)されます。

民間伝承によりますと、日本全国の神様が、

出雲大社にお集まりになり、「縁結び」の会議

をされることから、このような呼び名になっ

たそうです。 したがって、出雲地方では、

「神在月(かみありづき)」と呼ぶそうです。

「無(な)」は、六月の別称(べっしょう)で

ある「水無月」の「無」と同じく、古語(こ

ご)の連用形で、現代語では、「の」になりま

すので、まさに、「神の月」「神祭る月」であ

ります。 明治天皇様は、御製(ぎよせい)

に、

「とこしへに 国まもります 天地の

神のまつりを おろそかにすな

と、お詠みなっていら

っしゃいます。 また、

「わがくには 神のすゑなり 神まつる

昔のてぶり わするなよゆめ」

とも、お詠みになられてい

ます。 宮司を兼ねている六連島八幡宮、さ

らに、田の首八幡宮の例祭を厳かに執り修め

ることが叶いました。 たくさんの方々のお

支えあればこそ、御奉仕終えることが出来た

のでありまして、心から感謝申し上げます。

「ああすれば良かった、こうすれば良かった」、反省することしきりですが、これは、

「後の祭り」であります。 松下電器の創業

者である松下幸之助さんは、「うまくいった

時は、皆のおかげ、うまくいかなかった時は、

すべて、自分に原因がある。」と仰っています。

肝に銘(めい)じて、謙虚に受け止め、

今日からの当宮秋季例大祭、明治天皇様の大

御心(おおみこころ)に叶うことができますよ

うに、誠心誠意、おつとめさせていただきます。

お待たせしました。 一ヶ月十二日ぶりの宮

司プレス第百七十八号の発行です。 先月で、

一月に二回発行という快挙(かいきよ)が、

途絶(とだ)えてしまいました。 「キヤ

ッチ アップ ミッション(発行の遅れを

取り戻す作戦)」は、躓(つまず)いていま

す。

◇さて、皆様は、「神(かみ)」の語源(ご

げん)を御存知(ごぞんじ)ですか。 元

禄(げんろく) 十五年に刊行(かんこう)

された神道名目類聚抄(しんどうみょうもく

るいじゅうしよう)には、「優(すぐ)れたる

徳(とく)のありて畏(かしこ)きものを総

(すべ)て神(かみ)という」と書かれています。 そ

の優れたる徳のあるものは、大自然、人や鳥

獣(ちようじゅう)の類(たぐい)、さらには、

自然現象をふくめてのことだと書かれています。

ます。 そのことを、吉田神道の吉田兼邦(よ

しだ かねくに)は、

「天地の 中にみちたる 草木まで

神の姿と 見つつ恐れよ」と、わ

かりやすく詠んでいます。 さらに、大正十

三年に刊行された神祇辞典には、神の説明に

ついて、五つの説が記載(きざい)されています。

なかでも、最も多く唱(とな)えら

れているのが、神は「上」と同義でありとい

う説です。 二つめは、「カガミ」(鏡)の意

味であるという説です。 江戸時代に「吉川

神道」いう神道論を唱えた、吉川惟足(よし

かわこれたる)もその論者(ろんじや)の一

人であります。 三つめは、江戸時代の国学

者(こくがくしや)の谷川士清(たにがわ し

せい)が説いた、「アカミ」(明見)の意味と

いう説です。 四つめは、江戸時代の儒学者

(じゅがくしや)である新井白石(あらい

はくせき)や国学者の賀茂真淵(かもまぶ

ち)が説いた、「カミ」(上)の意味であるという説です。さらに、五つめは、「カシコミ」(畏)の意味であるという説です。「神」

について、詳述(しようじゅつ)してまいりましたが、私なりにまとめてみます。要するに、神は「上」で高い上の所にあつて、その威霊(いれい)の測り知れないものであります。そして、自然界において超人間的靈力や威力のあるものを神として崇(あが)めるのです。さらに、畏敬(いけい)、讚美(さんび)、恐怖(きょうふ)、感謝の心を起させる人力(じんりき)の及ばない不思議な力をも神としたのではないのでしょうか。後醍醐天皇(ごたいごてんのう)様も、御製に、「みな人の心をみがけ ちはやふる

神の鏡の くもるとききなく」

と詠(よ)まれておられます。神の鏡が曇る時がないように、人も心を磨いて変な色にそめるな、曇らせてはならない、そのような心を持つてようつとめなさいと説いています。同じような内容の和歌を、神を鏡と説いた前述(ぜんじゅつ)の吉川惟足は、

「もろもろの 穢れの雲を 祓ひなば

心の月は いつもさやけき」

と詠みました。心を月にたとえるならば、心の月が、いつも、清く潔(さや)けくあるためには、いつも、穢(けが)れを祓(はら)

いやる努力が必要であると説いたのです。

◇この一年半、新型コロナウイルス感染症に振り回されながら、生活の環境は大きく変わりました。しかしながら、私共にとりまして、変えてはならないのが、御先祖様から受け継いできた祭典の厳修(げんしゅう)です。今日からの秋季例大祭は、後醍醐天皇様のおっしゃった、神様の鏡は、いつもピカピカで輝いていらつしやるように、私共の心の月もさやけきものにする、大切なお祭りです。そして、その祭典の厳修によって、世の中の景色が、谷川士清が説くように、明るく見える、神の別名である「明見(あかみ)」となるよう願うものです。御自愛ください。

◇十月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 *十月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *十月一日

▼六連島八幡宮秋季例大祭

*十月四日〜五日

▼田の首八幡宮秋季例大祭

*十月九日〜十日



▼下関市青年神職会正式参拝

*十月十二日

▼舞子島八幡宮例祭

*十月十五日

▼明神社例祭

*十月十五日

▼朝粥会

*十月二十一日

▼秋季例大祭

*十月二十二日〜二十四日

※サイ上り神事 十月二十四日



◇十月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

□敬神婦人会清掃奉仕作業

*十月十七日

□秋季例大祭奉仕者説明会

*十月二十日

▼山口県神社庁関係

□顧問参与会 *十月六日

□講演講師養成講習会 *十月六日

□神社庁役員会、過疎対策特別委員会

*十月十三日